

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 山形県社会福祉事業団		
事業所名	特別養護老人ホーム大寿荘 【事業所番号：0672300290】		
介護サービスの種類	介護老人福祉施設	定員数	100名
〔介護ロボットの製品名〕 〔通信環境整備の製品名〕 〔導入時期及び台数〕	[製品名] ココヘルバG [導入時期] 令和5年12月1日 [導入台数] システムウェア1式、 会話ユニット109台、アンドロイド端末20台、 ヘッドセット5台		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース（契約期間 年 月～ 年月）		
事業概要（現在の問題点・ 導入台数の妥当性・職員との 導入意義の共有）	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の問題点 現在のナースコールシステムはメインの受信機が職員待機所（※以後、スタッフルームという。）に設置されている他、ナースコールを押した際に点灯するランプが各居室入口に設置されている。メインの受信機で応対する場合は職員がスタッフルームにいる必要があり、居室入口にあるランプについては、点灯するものの音が鳴らないため、ナースコールに気付くのが遅くなってしまいうような状況になっている。そのため応対する職員の確保や利用者のリスク管理が大きな課題となっている。 ・導入台数の妥当性 業務効率化及び円滑な介助のために、勤務している職員全体で情報を共有する必要があることから、一日のうち一番職員の多い時間帯を想定し必要台数としている。 ・職員との導入意義の共有 職員会議を通じ機器導入後の支援体制を検討する。成果として業務フローを策定し、その後は年毎に評価・検証を行い更なる業務の向上を目指す。 		
機器を導入することにより 達成する目標（機器導入の 翌年から3年間、年度毎）	○導入後（翌年）1年目 ・各棟のリーダーを中心に機器の使用に慣れてもらい、段階的に職員全体の使用定着を目指す。 ・機器導入に伴う業務見直しを実施。効果的な使用方法や介助体制について各棟リーダーより意見を聴取し、業務フローを策定することで、業務効率化及び利用者介助の向上を図る。 ○2年目 ・1年目に策定した業務フローの中間評価を行う。使用定着率及び業務効率化について職員向けアンケートを実施し、30%以上の改善効果実感達成する。また、結果をもとに更なる効果実感に向けた業務フローの向上を目指す。		

	○3年目 ・2年目に修正した業務フローの最終評価を行う。2年目同様、使用定着率及び業務効率化について職員向けアンケートを実施し、50%以上の改善効果実感達成する。
期待される効果等	○導入後（翌年）1年目 ・インカムの使用により職員の移動距離の短縮が期待できる。 ・機器の使用が定着することで、職員間のコミュニケーションが向上する。 ・コールを使用した利用者及び対応情報についてインカムを通し共有化できることで、職員全体で利用者の状態把握に繋げることができると期待される。 ・業務フローを策定することで、職員毎の役割と支援体制が明確になる。 ○2年目 ・業務フローを評価・検証することで、更なる支援体制の向上が図られる。 ○3年目 ・業務フローを評価・検証することで、更なる支援体制の向上が図られる。
効果検証の方法（効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録）	業務フロー策定後に、介助に携わる全職員向けにアンケートを実施。2年度・3年度に目標達成率を定め、定量的に効果の度合いを検証する。

3 事業・導入スケジュール

期間（予定）	内容	経費概要	備考
5年 4月 1日 ～ 5年 6月 30日	・現有しているナースコールの課題を職員より徴取。問題点を整理し、導入機器の選定を行う。		
5年 7月 1日 ～ 5年 7月 30日	・棟のリーダー職員及び事務担当を中心としたメンバーで部門間会議を実施。必要台数の検討と機器導入後のイメージを共有する。 ・取扱い業者へ導入機器の見積依頼を行う。		部門間会議
5年 8月 1日 ～ 5年 8月 28日	・取扱い業者より見積書の徴取。 ・補助事業計画書の作成及び申請。		
5年 12月 1日 ～ 6年 3月 31日	・交付決定後、機器の見積合わせを実施。業者の選定を行う。 ・製品の発注。 ・製品の導入。		支援体制検討委員会

	<ul style="list-style-type: none"> ・製品動作環境の整備。 ・納入業者より機器使用の説明会を実施。その後、棟のリーダー職員管理のもと、職員全体への使用定着を目指す。 ・棟のリーダー職員を中心に、支援体制検討委員を発足し、業務フローの策定を行う。 ・実績報告書の提出 		
6年 4月 1日 ～ 7年 3月 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けにアンケートを実施し、機器利用及び支援体制の中間評価を行う。 ・職員アンケートをもとに支援体制検討委員により業務フローの見直し・改善を行い更なる支援体制の向上を図る。 		支援体制検討委員会
7年 4月 1日 ～ 8年 3月 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向けにアンケートを実施し、機器利用及び支援体制の最終評価を行う。 ・職員アンケートをもとに支援体制検討委員により業務フローの見直し・改善を行い更なる支援体制の向上を図る。 		支援体制検討委員会

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）

2 補助事業計画書

事業者名	社会福祉法人 山形県社会福祉事業団		
事業所名	特別養護老人ホーム 福寿荘【事業所番号：0672500378】		
介護サービスの種類	介護福祉施設	定員数	90名
介護ロボットの製品名 通信環境整備の製品名 導入時期及び台数	[製品名] ココヘルバシステムウェア 1式 /アンドロイド端末 5台/コムユニット (GBTU-01) 4式/インカムソフトウェア 4台/無線 LAN アクセスポイント (WAPM-1266R) 18台/ PoE ハブ 16ポート (BS-GS2016P) 3台 / UTP ケーブル 1,000m他 [導入時期] 令和6年3月1日 [導入台数] 4式		
購入又はリースの別 ※該当する方に○を記入	○購入・リース (契約期間 年 月～ 年 月)		
事業概要 (現在の問題点・導入台数の妥当性・職員との導入意義の共有)	当施設は居住棟が3棟あり、各棟に担当職員を定め、各棟で職員が支援業務を行っている。業務上の動線が長く、一目で全体を見渡せる施設構造ではないため、業務中に他棟の職員間でコミュニケーションをとることができず、柔軟な対応を即座に進めることが困難であり、援助業務を行うには非効率な環境にある。特に夜勤においては、各棟1人と全体支援1人の4人体制での業務のため、職員との情報交換や応援要請のために持ち場を離れ職員を探すこともあり、利用者から離れるリスクと非効率性が常に問題となっていた。これは利用者からのナースコールに対し、職員が対応する際にも、同様のリスクと非効率性が存在している。これらの問題に対し、インカムを各棟と全体支援の4台分導入することで、支援の現場にいながら情報を発信、共有し他棟との連携に繋げられる他、ナースコール使用の利用者との会話も可能となるなど、業務の非効率性とリスクの解消が格段に図られる。また、機器の導入により業務効率化が進捗し、より働きやすい環境が形成され改善することで、職員の負担軽減や事故の防止、サービスの充実が図られ、ひいては中途退職(離職)の防止の一助になることも期待できる。		
機器を導入することにより達成する目標 (機器導入の翌年から3年間、年度毎)	○導入後(翌年)1年目 ・インカム、ナースコールシステムの全援助職員の基本的操作方法の習得。 ○2年目 ・インカム、ナースコールシステムの機能を用いた利用者支援の活用方法の検討会実施。運用方法の点検と業務効率化を進める効果的な改善策をまとめる。 ○3年目 ・業務の軽減、効率化の実現。職員の離職率の減少。 ・インカム、ナースコールシステムの運用方法の点検、検証の実施。 検証結果に応じた機器の拡充等の検討。		

期待される効果等	○導入後(翌年)1年目 ・インカム及びナースコールシステムを使用することで、職員同士の連絡等のための非効率な移動機会とタイムロスの減少。利用者の要望への迅速な対応。 ○2年目 ・非効率な移動等で消費されていた業務の実労働時間の確保、業務内容の質・量の向上、利用者1人当たりのサービス提供時間の拡大。 ○3年目 ・利用者1人当たりのサービス提供時間の拡大による利用者の満足度の向上。既存の勤務体制の見直しを図り、職員の業務効率化の進化。ヒヤリハット事例数の減少。
効果検証の方法 (効果に関するデータを客観的な評価指標に基づいて記録)	・毎月の部門会議で、運用状況の報告と検討を行う。 ・導入前後の業務の改善効果、実態観について職員にアンケート調査を行い、集計結果を基に見直しや更なる改善を図る。 ・ヒヤリハット事例発生件数、職員の離職者数の推移等、機器導入とは直接的に結び付かない事柄についても視野を広げ、効果検証の委員会を立ち上げ、集計内容の検討と改善策を検討する。

3 事業・導入スケジュール

期間(予定)	内容	経費概要	備考
令和3年12月～	<ul style="list-style-type: none"> 既存のナースコールの経年劣化に加え、不具合が発生し更新の必要性が高まる。 援助職員から課題の聴取。職員間で情報伝達をする時に、職員がいる場所へ出向かなければならない点や、夜勤時など、他の棟の利用者の行動に気付いても、持ち場を離れて本来の棟担当へ情報を伝える事が不可能であるなど、業務の非効率性が課題として上がる。 		
令和5年1月～	<ul style="list-style-type: none"> ナースコールシステム更新にあわせ、インカムを導入することで課題解決を図る方針とする。 		
令和5年2月～	<ul style="list-style-type: none"> インカムと連動するナースコールシステムについて、メーカーから説明を受ける。部門会議にて、インカム導入時の課題や導入台数等の検討を行う。 		
令和5年5月～	<ul style="list-style-type: none"> 導入台数等を勘案した参考見積の依頼。 		
令和5年7月28日～8月28日	<ul style="list-style-type: none"> 法人事務局と協議を行い、山形県介護ロボット導入支援事業費補助金事前協議書の作成、申請手続き。 		

令和6年2月28日 ～2月29日	・設置工事（予定）		
令和6年3月1日	・インカム及びナースコールシステム導入（予定）。		
令和6年3月1日 ～3月31日	・インカム及びナースコールシステム導入 試行期間。マニュアル作成、取扱方法の 習得。施行1カ月間内の問題点を洗い出 し、次年度への改善策を検討。		
令和7年3月1日～	導入1年目検証： ・全援助員に対してアンケート（負担軽減、 業務効率化、使用状況等）の実施。 ・利用者にサービス満足度のアンケート実 施。		
令和8年3月1日～	導入2年目検証： ・全援助員に対してアンケート（負担軽減、 業務効率化、使用状況等）の実施。1年目 と比較し課題等の改善策を検討する。		
令和9年3月1日～	導入3年目検証： ・インカム導入後の職員の離職率を検証。 ・利用者にサービス満足度のアンケート実 施及び3年経過後の検証。		

※スケジュール作成の留意点について

スケジュールにおける導入・活用・効果検証にあたり、実施方法、体制づくり、業
務の見直し等について、以下の点を反映させること

ア業務の状況分析・問題点の洗い出し、イ機種選定・導入計画の検討、ウ導入担当
者・チーム体制整備（導入・活用・効果検証の各担当者）、エ実際に機器を使用する者
（介護職員等）の意見聴取、オ機器導入時期、カ職員の習熟及び教育・研修計画（マ
ニュアル整備等）、キ導入によるケア方法の見直し予定、ク効果検証の実施、ケ効果検
証の結果に基づいた業務改善の取組検討（実績報告から3年目までの取組）